

## 当たり前前の行動で生き物を守る

藤枝市内小学校

藤村さん

「えっ！こんなものまで落ちてるの？」

夏休みにビーチクリーンをして、私は落ちていたごみにおどろきました。落ちていたのは、花火やおかしのごみだけでなくバーベキューで使ったトングやガスマッチ、コンテナの一部なども落ちていたからです。

「こんなものを捨てたら、えさとまちがえて食べてしまうかもしれない……。」

目の前に落ちているごみを見て、とても悲しい気持ちになりました。

私は今、授業でSDG<sup>s</sup>について学んでいます。その中で、「海の豊かさを守ろう」について調べています。特にびっくりしたのは、プラスチックごみが海に流れ込み、それらが細かい破片となって魚や鳥が食べてしまうということです。プラスチックをまちがえて食べてしまうと、それがどに詰まり死んでしまう魚や鳥もいるそうです。また、より小さいマイクロプラスチックごみは、非常に小さいので魚の体の中にどんどんためられていきます。そして、その魚を私たちが知

らない間に食べてしまい、私たちの体の中にもマイクロプラスチックが入ってしまいます。

私はこのことを知り、本当に海にごみが落ちているのが気になり、家族と一緒にビーチクリーンに行ってみることにしました。そして、思っていたより色々な種類のごみが落ちているにおどろきました。なぜ、「ポイ捨てはやめましょう」と言われているのに、ごみを捨てていってしまう人がいるのでしょうか。

ビーチクリーンをしていて感じたことは、ポイ捨てされていたごみの多くが石垣の間や草むらの中など人の目が見つからないところにわざとかくして置いてあったことです。悪いとわかっているのに置いて帰ってしまったのだと思います。また、花火のごみのほとんどが打ち上げ花火のごみで、夜に花火をやって打ち上げられた花火のかけらがどこに飛んでいったのかわからず、そのままにされてしまったのだと思います。

ごみを持ち帰りたくない、小さいごみだし少しくらいいいかなという自分勝手な気持ちが魚たちを苦しめているのだと思います。

「来た時よりも美しく」

この言葉は私の母がよく言う言葉です。そして当たり前前の行動だと思います。

この気持ちをみんなが持てば、少しずつですがポイ捨ては減っていくと思います。私も海だけでなく、公園や遊びに行った先で自分のゴミは持ち帰ると、少しでもゴミから離れたいという気持ちを思っています。私にできることは小さくてもいいかなと思います、当分の前のごとくは続けていくことで、一匹でも多くの生き物を救っていきたいと思います。

